

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 菱形基線 基線尺比較室跡周辺の整備

国立天文台天文情報センターでは、通常見ることのできない施設を案内する二つのコースのガイドツアーを毎週火曜日に行っている。二つのコースは、

- 1) 登録文化財コース：第1赤道儀室、天文台構内古墳、太陽系ウォーキング、太陽塔望遠鏡（内部に入る）、国立天文台歴史館（65cm赤道儀望遠鏡ドーム）、展示室。
- 2) 重要文化財コース：日時計、日本標準時決定子午儀跡のモニュメント、旧図書館（外観のみ）、子午儀資料館（重要文化財：レプソルド子午儀）、TAMA300(地上から)、ゴーチエ子午環、天文機器資料館（内部に入る、旧自動光電子午環棟）、展示室である。

このガイドツアーは、国立天文台が一般公開として年末年始を除いて行っている常時公開では見ることのできない太陽塔望遠鏡、天文機器資料館の中を見ていただくために始めたものである。このガイドツアーは火曜日の13時30分からおよそ2時間をかけて案内しているが、週日では来ることが出来る人は限られ、参加者から日曜日にも行ってほしいとの要望が多い。一方、国立天文台構内には測地学関係の史跡があり、これらの整備も進んでいる。そこで日曜日にガイドツアーを行うに当たって、これらの測地学関係の史跡を巡るコースを加えることを企画し、そのコースの整備を始めた。

測地学関係の史跡は、1) 三鷹国際報時所跡、2) 三鷹国際報時所 60m 鉄塔跡、3) 一等三角点「三鷹村」、4) 菱形基線端点、5) 菱形基線・基線尺比較室跡である。

今回、4) 菱形基線端点、5) 菱形基線・基線尺比較室跡をガイドツアーコースにするために、その周辺の整備を行った。菱形基線は、大正初年に文部省測地学委員会によって東京大学東京天文台（国立天文台の前身）が三鷹に移転する以前に東京天文台の敷地に「地殻変動調査」のために設置したもので、一辺100mの菱形の端点に基準標識が埋め込まれている。この菱形基線の東端点から北端点を延長した25m地点にさらに基準標識がある。その基準標識と北端点を結ぶ線上に間口3m、長さ30mの細長い基線尺比較室が設置されていた。この比較室は、相模野基線場にあった基線尺比較室を1927年（昭和2年）末に東京天文台構内に移設したものである。現在は、この比較室の建物はなく、東西南北4点の端点と東端から北端の延長線上25m地点に5個の基準標識が残っており、その基準標識はピラミッド型の覆いで保護されている。この菱形基線は国土地理院所管で、数年に一度の頻度で地殻変動の測定が行われてきた。1923年（大正12年）の関東大震災の際、この菱形基線で地殻変動が観測されたとの研究報告がある。

特に、菱形基線の北端点、東端点から北端点を延長した25m地点の基準点、基線尺比較室周辺は孟宗竹の竹藪、笹藪、雑木が茂り踏み入ることが難しいほどであった。そこで、

これらを切り払い、ガイドツアーの対象にするための整備を行ったのである。写真 1 が孟宗竹の竹藪、笹藪、雑木を切り払った様子である。



写真 1 奥に見えるのが北端点、手前が延長基準点のピラミッド型覆いである。

写真 1 の手前のピラミッド型覆いを挟んで見えるコンクリート基礎が基線尺比較室の基礎の跡である。また 2 つのピラミッド型覆いの間に見える石柱が基線尺比較に用いられていた花崗岩の台である。その比較作業の様子が写真 2 である。



写真 2 基線尺比較の様子

写真3は、基線尺比較室の在りし日の写真である。間口が3m、長さが30mという細長い建物であった。写真4は、比較室を南から撮った写真である。



写真3 基線尺比較室を3mの間口から撮った写真

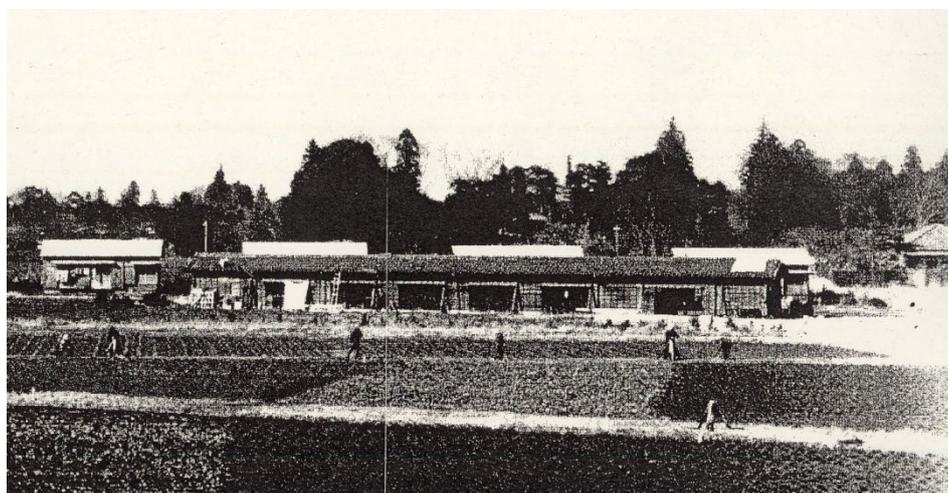


写真4 基線尺比較室を南から見た様子

写真2、3、4は国土地理院提供。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp